

5世紀続く稲作農家が持続可能な農業の未来を切り拓く
～ 美味しさと安全にこだわった米づくりと高付加価値化販売の取組 ～

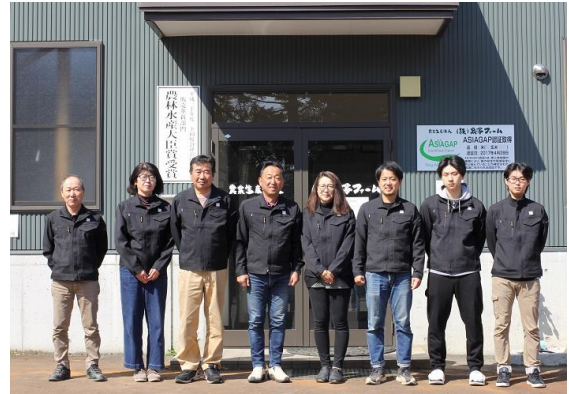
株式会社黒澤ファーム
代表取締役 黒澤信彦（南陽市）

1 受賞者の概要

同法人は、家族経営を基盤に法人化し、現在は役員である家族3名及び従業員5名からなる、稲作を主体とした経営体である。

良食味にこだわった生産を行い、数々の良食味米コンクール等に入賞している。また、水稻は有機栽培と特別栽培に限定し、環境負荷の少ない生産を行っている。

米の販売は、集荷団体を經由せず、独自に販売先を確保し高価格帯での販売を行い、高収益の経営を実現している。



2 特色ある活動

(1) 美味しさと安全へのこだわり

良食味米生産を追求し、早期から「ミルククイーン」、「夢ごごち」などの低アミロース米に着目して、独自に良食味米の栽培技術を確認してきた。また、水稻は全圃場で有機栽培または特別栽培を行い、環境に配慮した水稻栽培を実践している。

地域の農業者とグループを組み、水田の生き物調査や水路整備など集落での環境保全活動を行うとともに、生産する米のブランド化を図り、仕入れ販売を行っている。

(2) 多様な販路を開拓し高価格販売により高収益を実現

県内外の個人宅や著名人等を訪問して精米を配布し、食味嗜好性や購入価格帯のアンケート調査を行い、需要を的確に把握・分析し、販路拡大に繋げてきた。

また、良食味コンクール等受賞による知名度を生かし、首都圏の百貨店や高級料亭などへの出荷や、大手通販サイトなどで販売し高価格帯での取引を実現している。さらに、アジア圏に年間計約26tを輸出している。

(3) スマート農業技術の導入

スマート農業機械及びリモートセンシング技術を導入し、圃場内の生育の均一化により収量・食味の高位平準化を図っている。また、農業機械と連動した営農管理ツール「KSAS」を活用し、圃場ごとの作業データと収量・食味データを連携・分析することにより、次年度の生産計画に生かしている。

3 今後の発展方向

自社生産30haを目標に規模拡大を進めている。

現在、外食向けや小売り（百貨店、量販店）向けへの販売が多いが、リスク分散のため、自社ウェブサイトの充実などにより個人の顧客を増やしたい。また、米の輸出は、現在は自社生産分だけであるが、今後は、加入する農家グループが生産する米（仕入れ米）も輸出し、地域全体の所得向上に貢献したいと考えている。